

<p>学校教育目標</p> <p>生きる力の育成と地域を担う人間づくり</p> <p>①共に生きる力を養う(自己理解・他者理解を含め、他者と共存していく力を高める)</p> <p>②夢をかなえる力を鍛える(問題解決能力とともに、社会性及び人格を向上させる)</p> <p>③地域と関わる力を育む(地域への関心を高め、理解し、積極的に関わる力を育成する)</p>		<p>重点目標(中・長期的目標)</p> <p>①地域からの信頼を高め、地域を担う人材を育成する</p> <p>②人間としての在り方、生き方を深める教育を展開する</p>
<p>今年度の重点目標</p> <p>I 基本的な生活習慣の確立及び定着とともに、体験学習を通して自尊感情や規範意識を育成する</p> <p>II 計画的な進路指導を実践する</p> <p>III 地域に活動をアピールし、理解を得る</p> <p>IV いじめ・体罰のない、明るく安心な学校をつくる</p> <p>V 授業改革の取組を実践する</p>		
<p>総合評価</p> <p>比較的若い教職員が多い中、積極的に関わり持つことにより、総合的な生徒指導を行うように心掛けている。生徒指導上の課題はあるが、生徒の自律を促しながら、予防する指導を粘り強く行い、ほとんどの生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。また、自尊感情の育成、キャリア形成につながる体験学習を計画的に実施することができた。授業改善の取組では、授業規律の確立・定着に併せて、生徒の探究的な学びにつながる授業内容や指導方法について各教科で試行錯誤しながら研究を行った。ホームページの定期更新、石楠花通信の発行、茅野高フォーラムでの生徒発表や地域の方との意見交換会等、教育活動の情報発信、広報も工夫して取り組んでいる。</p>	<p>成果と課題</p> <p>ICT環境整備事業により、普通教室に電子黒板が設置され、多くの授業でICTの活用が見られた。アクティブラーニングを踏まえた授業展開がなされ、探究的な学びにつながっている。そのような教育活動や生徒の活動状況を積極的に発信することで地域や中学校に一定の理解は得られているが、地域へ浸透させていくことが課題である。キャリア教育の一環となっている地域での体験学習、信州学等を通して、人間力を育成し進路に対する意識をさらに高めることが課題である。</p>	<p>改善策と向上策</p> <p>生徒の探究的な学びにつながる、またICTを活用する授業改善に向けた研修・研究を引き続き全職員で行う。また、生徒の問題解決能力や社会性を向上させる取組、キャリア教育の一層の充実に向けて、地域での体験学習の改善を地域の方々とも協力して検討していきたい。</p>

※ 学校評議員評価

【 A:達成した B:現状維持 C:現状より悪くなった 】

1 教育活動について

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策	学校評議員評価
教育課程	新教育課程の検討及び運営	・新教育課程の具体的な運営について検討することができたか。	現教育課程で変更すべき点、及び来年度入学生の一年次から三年次までの授業展開を検討した。	新教育課程に関しては、現状で考え得る案を作成したが、入学生数や生徒の希望、そのときの状況に合わせるため今後も検討が必要である。 特に個に応じた指導に関わる授業展開は、生徒相談係りとも協力し検討することが必要。	B:100%
学習指導	学習環境の確立と きめ細かな学習指導の実践	・授業向上週間を設定するなどして、基本的な学習習慣と学習環境の確立に向けて努力できたか。 ・授業及び学習環境のユニバーサルデザイン化に取り組むことができたか。 ・生徒の探究的な学びにつながる教員の授業力の向上を目的として、授業公開を実施できたか。	・本年度は授業向上週間に特に関心せず、1学年を中心にSHRをTT指導で行い、服装と学習習慣の改善に努め、ある程度の成果をあげた。 ・特別なことは行えなかったが、本校職員が日々の授業で創意工夫していることの中に、ユニバーサルデザイン的な取り組みが含まれていることを共有できた。 ・初任者研修での授業研究に加え、ICT導入後の授業研究の公開を行った。教員相互の研鑽に役立てることができた。 ・保護者地域向けの授業公開への参加は非常に少なかった。	・授業向上週間は廃止し、本年度ある程度の成果をみたSHRのTT指導を全校に広げ、特に服装の指導を継続していきたい。 ・今後はさらに個々の取り組みを組織的取り組みに高められるようにしていきたい。 ・探究的な学びを深めていくことができるよう、今後も日々の学習活動の中で、教員相互の研鑽を行っていきたい。	A:40% B:60%
特別活動	生徒会活動の活性化	・生徒会役員に自治意識を涵養し、生徒自身がリーダーシップをとって全校を牽引していくよう指導することができたか。 ・生徒一人一人が、生徒会の構成員である自覚を持ち、委員会活動や行事などに積極的に参加する姿勢を身につけることができるよう指導できたか。	・生徒自らがやりたいことを計画し、実行する様子が見られた。校内装飾や文化祭の後夜祭が特にそうであった。生徒会としてやりたいことを、どのように準備し実施するかをよく考えて活動した。生徒会の中心的存在の生徒はもちろんであるが、それ以外の役員生徒も非常に責任感が強く、自分の立場でできること、やるべきことを、行事の度に探して動く姿があった。また、今年度はボランティアへの自主的参加が多かった。 ・役員以外の生徒も、以前に比べ生徒会行事への参加者が増えた印象である。一斉委員会は出席率が高い状態を維持できていた。生徒総会の時なども、役員に協力しスムーズな進行に貢献した。	・全校生徒の意識はまだ低いところがある。しかし、一声かけることはできていた。難しい部分ではあるが、まずは役員生徒が模範を示せるように、自らの服装を常に意識するところから促したい。 ・文化祭時の一般生徒の参加を増やしたい。そのために、企画等で工夫をしたい。	A:60% B:40%
生徒指導	社会性、協調性及び正しい判断力の育成と主体的な行動の促進	・社会性のルール、マナー及び規律を遵守させることができたか。	・職員で校門等での挨拶運動を定期的に行い、昼の立ち番は毎日行った。 ・立ち番の成果として昼休みの外出者はほとんどいなくなった。 ・遅刻者についても激減したが、指導の必要性があると考えた。	・挨拶運動や各ホームルームや集会等での指導の成果が出てきてはいるが、さらに多くの機会を捉え粘り強く指導していく。 ・各授業を通じて基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせるのと同時に、他者との関わり合いにも配慮しながら、教科担当者が連携を持って工夫していく。	A:60% B:40%

生徒指導	生徒・保護者・地域社会との信頼関係の構築	・家庭や地域との連携を図った指導をすることができたか。	・PTAの諸会合、学校評議員会、諸会議等で本校の生徒指導の基本的な考え方、現在の課題を伝え、理解と協力を求めた。 ・事例発生時、各担任から迅速な家庭連絡が行われ、指導が円滑に進めることができた。	・昨年度まで多かった服装・ゴミのポイ捨て・自転車の乗車マナーなどについての地域からの苦情はほとんど無くなってきた。 ・さらなる向上のため、生徒会活動などを通じて生徒に呼びかけを行ってきたい。	A:60% B:40%
	個のニーズに応じた手厚い指導	・関係機関等と連携し、個のニーズに応じた指導・支援ができたか。 ・特別支援教育の充実に向けた校内体制の構築や職員研修ができたか。	・支援が必要な生徒に対する特別支援教育支援員及びスクールカウンセラーによる面談については迅速な対応ができ、継続的なソーシャルスキルトレーニングも実施できた。必要な生徒に対しては行政機関やSSW、医療との情報交換もでき、就労支援も行った。また新入生を対象とした学習到達度診断・全員面談も実施できた。 ・毎週の学年会・係会によるチーム支援により、早い段階で困難を抱えている生徒の状況把握ができた。 ・教員の資質向上に向けて、SSTに関する職員研修会を行った。	・新入生に関する情報を中学校とより密度高く行えるようにする。 ・課題を抱えた生徒の情報を一元的に管理し、必要ときに情報共有できるようにする。 ・新入生の学習到達度診断・面談の結果の有効活用を考える。 ・特別支援教育支援員、スクールカウンセラーと連携した体制は整いつつあるので、今後は職員個々のスキルアップのための研修に、より重点を置いていきたい。	A:60% B:40%
進路指導	生徒の多様な進路希望への対応	・生徒面談や保護者懇談会の際に進路アンケートを活用して生徒個々の進路希望を把握することができたか。	・生徒1人1人が多岐の進路選択から自分に合った道を選べるよう、進学就職を織り交ぜたガイダンスや見学を計画した。	・今年度も進学希望者が多く、補習や学力向上など個々の状況に応じて個別対応した。 ・生徒の進路意識の向上と基礎学力を補いながら進路実現に結びつけることが重要である。	A:60% B:40%
		・計画的な進路ガイダンス、小論文(作文)指導、面接指導、補習を実施できたか。	・小論文・面接指導は、多くの職員が関わり生徒の特性を引き出しながら対応できた。	・必要となる生徒が限定的なものであるため、必要となる生徒を把握し少しでも早めの対応が望まれる。	
	・就職に役立つ情報を提供し、事業所見学を奨励することができたか。	・1月にの諏訪圏の企業説明会が実施され、1・2年生全員が参加し、早い段階から就職を意識することができた。	・企業との交流を増やすと同時に、卒業生や先輩から直接就職活動の様子や会社の様子など話を聞ける機会を増やし、生徒が積極的に質問を投げかけられる場を更に設けていく。求人票の見方の指導を徹底し、学校からの情報を生徒が理解できるように力をつける。また、保護者にも子供と会話をもち、子供の進路希望や、進路活動の様子を知ってもらう必要性を強く感じる。	A:60% B:40%	
	・進学先に関する情報を提供し、積極的に学校説明会・オープンキャンパス等に参加させることができたか。	・様々な業者による学校説明会、オープンキャンパスに参加させることが出来た。進路揭示、保護者懇談会など、保護者に対しても、情報を発信することが出来たと感じる。今年度は県外への進学者も多く、奨学金説明会も行った。	・教職員対象の学校説明会や、校内進路ガイダンスに参加いただく学校の情報提供を、最新の情報として生徒に発信、更新していくことが大切。 ・2学年の頃から、奨学金や特待生、指定校生の説明を丁寧に行い、計画的に進学に向けての準備が出来るようサポートする。	A:80% B:20%	
キャリア教育の推進	・体験学習等を計画的かつ効果的に実施できたか。	・体験学習をはじめ、施設体験、学校・職場見学、様々な進路に触れる機会から、工業メッセやマナー講習会、最終的に高校生企業説明会までスムーズに繋げてこられたと感じる。1月から、就職支援員による2学年の就職面談をしているので、この結果も来年度に繋げていく。	・茅野高フォーラムで、各学年より、総合学習やキャリア教育を通して何を学び、いかに下の学年に学んで欲しいか伝える取組をした。実際に先輩から聞く体験談は教員の話よりも生徒に響いた様で、今後も生徒への発信の仕方を多様に考えて行く必要がある。また、コミュニケーション力、会話能力の低下については、今後も大きな課題として、ワークショップや面談を多く取り入れるなど機会を増やししながら指導する必要もある。	A:80% B:20%	

2 学校運営について

地域との連携	地域への広報活動	・学校案内や石楠花通信等での情報発信や、中学校での説明会が実施できたか。 ・ホームページの定期的な更新ができたか。	・コース等が変わるのに併せて学校案内の見直しを行うことができた。石楠花通信では記事の精選等、スムーズに行い発行することができた。 ・ホームページはこまめに更新することができた。	・茅野高校生の活動をさらに地域に知らせていくために、生徒会の地域活動や部活動などの取り組みをまとめ発信していく機会を更に増やしていきたい。また、本校のアピールポイントがさらに中学生に伝わりやすいような学校案内にしていく。 ・ホームページの更新をしやすいようなコンテンツを設けるのも効果的かと思われる。	A:80% B:20%
	地域の人材、施設の活用	・総合的な学習の時間や探究的な学習の時間、福祉保育コースなどの特色ある授業への協力要請・外部講師の依頼、また、部活動等への指導要請ができたか。	・各学年共、地域の様々な組織の支援協力の下、体験型の学習に取り組むことができた。3年福祉保育コースでは、1年を通じて金曜日に実習を行わせていただいた。	・校外での体験型学習は、生徒の規範意識を向上させる良い機会となっている。地域の様々な形での支援協力には大変感謝している。これらの機会をより有効にするために、事前指導を徹底するとともに生徒自身の目標と計画を立てた上で、学習の望むような態勢を構築したい。	A:60% B:40%
校内研修	職員研修の実施	・校内初任研の実施ができたか。 ・校内研修や学校視察等を実施できたか。	・特別支援教育研修、進路及び探究的な学びに関する研修、他校の研究授業への参加等、積極的に行われた。長峰中学校職員との交流も実施した。	・今後、探究的な学びに関する研修や特別支援教育に関する研修、ICT教育に関する研修等、継続して行っていく必要がある。	A:60% B:40%

記述

- ・2月20日に開催された茅野高フォーラムに出席しました。卒業生を含めた縦のつながりを重視した内容で、茅野高生であることの”誇りの輪”を感じる事ができました。特に、茅野高アワードは画期的な取組だと思えます。日々の活動で横のつながりも強くなっていることもわかり、茅野高の魅力が増したと思えます。
- ・ここ数年、地域の大人、子どもたちの茅野高に対する印象が良くなっている。生徒指導や地域との交流に力を入れ続けてきた結果だと思えます。毎日授業を行いながら、生徒指導、地域との交流はとても大変だが、今後も力を入れ継続してもらいたい。